

館長だより 第8号(令和7年4月26日)

新緑の時期を迎えました

例年より遅れ気味だった梅花にはじまって、桜や山吹・木瓜などが相次いで開き、4月の風土記の丘は一気に彩が豊かになりました。いまは広場の藤や柳川家住宅入口のシバザクラ、園路を縁どるツツジなどが盛りですが、山全体は早くも爽やかな新緑を主体とする色合いに移りつつあります。



体験広場のフジ（4月25日）



梁川家住宅前（4月8日）

いまの季節は、風土記の丘にある古墳の姿が最もよく見える時期でもあります。2～3月に、園内の作業に当たる職員の皆さんが墳丘や園路わきの笹を集中的に伐採し、落ち葉なども片付けてくれましたので、見通しもきき、小ぶりの円墳の形までがはっきりと見えるようになりました。散策用の園路を歩いていただくと、そうした古墳を縫って園路が伸びているのに気づくでしょうし、いったん気が付くと左右の斜面にあるたくさんの古墳が次々と目に入ってくるでしょう。

でも、こうした古墳の姿をゆっくりと味わえるのは5月の連休のころまで。中旬以降になると急速に笹が伸びだし、みるみるうちに古墳の姿をぼやかしていってしまいます。気候も穏やかに安定している4月末～5月上旬の時期に、風土記の丘でゆっくりとお過ごしいただきたいと思います。大日山35号墳の



墳頂からは、北に和泉山脈、西に和歌山市街地から淡路島方向も見渡せ、見晴らしもなかなかですよ。



企画(イベント)も本格的にはじまります

新学期が始まり、見学で訪れる小学生の声もよく聞こえるようになりました。これから風土記の丘は賑やかな季節を迎えます。植物観察や昆虫探しの例年の講座に加えて、ご家族連れや子どもたちを中心にした連休のハニワづくり・まが玉づくりも準備万端、風土記の丘は多数の企画を用意して皆様のお越しをお待ちしています。自分がつくったオリジナルのハニワで、風土記の丘のグランプリを目指すのはいかがでしょう。HANIー1選手権も始まります。

埴輪が里帰りしました

遺跡の調査で出土する遺物はほぼ全てが破片の形ですが、整理の段階で可能なものは接合させ、できるだけもとの形がわかるように復原して展示しています。「整理」という言葉を用いますが、その過程では、遺物の形状だけでなく、表面や断面の観察から製法や技法を解明したり、他の遺跡の出土事例と比較したりして、出土物の全体像やその遺跡の特徴を考えたりする、重要な研究が行われます。接合に際しても遺物に影響を与えないような材料や方法が検討されますし、遺物によっては保管や展示に際して温度や湿度など繊細な条件が必要なものもあります。



そうして保管・展示している遺物のなかにも、長い年月のうちには僅かに劣化が認められるものが出てきたりしますし、より保存に優れた技術が開発されたりする場合があります。風土記の丘では、大日山35号墳から出土した重要文化財の埴輪のうち、修復が必要なものを順次専門機関(元興寺文化財研究所)に依頼して修復しています。

この度、令和4年度から修復作業中だった2点の埴輪が風土記の丘に戻ってきました。1点は冢形埴輪。全高152センチで、全国有数の大きさです。出土後の研究に基づき、以前とは少し異なる形に修復した箇所もあります。もう1点は胡籬形埴輪と呼ばれるもの。胡籬(ころく)とは矢を入れる兵具です。埴輪の全体的な雰囲気損なわないように、別素材で補った部分も色合いを調和させました。この方法も最近の修復の傾向です。